

静岡産業大学(東海1) vs 駒澤大学(関東3)

《第1試合》 15:30 Kick off @鶴見緑地競技場

鶴見緑地第1試合は大方の予想通りの対戦となった。しかし、両者ともに1回戦では苦しんでの勝ち上がりとなった。

1回戦、静岡産業大は北陸大と対戦。シュート数こそ相手の倍を打ちながらも1、2年生主体の北陸大に攻めあぐね、0-0のまま延長戦に。延長戦開始2分でセットプレーからつかんだ点が決勝点となり2回戦へ駒を進めた。「前半のスタートが悪く相手に付け入るスキを与えてしまった」と成嶋徹監督。「スタートからしっかり行けるよう、短期で修正をしたい(成嶋監督)」。

対する駒澤大も東北学院大に得点こそ2-0だが、立ち上がりに苦しみ、相手にチャンスを与える場面も。ようやくの得点は前半33分。この日動きが良かった②酒井隆介がゴールライン際で粘ってあげたクロスをも⑩梶佑喜が流し込んだ。「思うように行かなかった」と秋田浩一監督。追加点までも遠かった1回戦をそう振り返った。

「(駒澤大戦は)タフな試合になるだろう」と静岡産業大、成嶋監督。「相手に振り回されず自分たちのサッカーを貫きたい」とも。一方、駒澤大の秋田監督は「相手はテクニックのあるチーム」と静岡産業大を警戒。もちろん試合には「良いゲームをして勝ちたい(秋田監督)」と臨む。試合後、ベスト4に駒を進め笑うのは如何に。(関西学生サッカー連盟)

高知大学(四国) vs 大阪学院大学(関西2)

《第2試合》 18:00 Kick off @鶴見緑地競技場

サイドチェンジで横に揺さぶり、相手ボックス前にできたスペースでシュートを放つ。お手本のようなサッカーで大院大は初戦を突破した。関西学生選手権から堅守速攻をベースに戦ってきたが、そのスタイルを堅持している。2回戦以降は「守る時間が長くなる。守ってカウンターをどれだけ徹底できるか」と藤原義三監督。守備面ではDF④吉井直人(4年)とDF⑥高橋周也(2年)がカギになると話す。初戦で自信を深め、「自分たちのサッカーをするだけ」とMF⑦加藤健太主将(4年)は勝利に浮かれることなく冷静だ。

高知大は「挑戦」をキーワードに今大会を戦う。初戦では関東第1代表の東海大に逆転で快勝。後半にFW⑩高木恭兵(4年)のFKから同点に追いつくと、一気に試合の流れを引き寄せた。前大会では粘り強いサッカーで、国立大ながら3位躍進。その実力は本物だ。「2回戦でも、関西の代表相手に『挑戦』の戦いを続ける(野地照樹監督)」。

深まるスタイル、関西の意地がある大院大。たしかな実力とチャレンジャー精神で挑む高知大。2回戦は気持ちのぶつかり合う試合が見られるだろう。(UNN関西学生報道連盟 深江 友樹)

◆2回戦進出チームの1回戦の結果◆

@鶴見緑地球技場

《第1試合》福山大(中国) 0 (0-1/0-3) 4 大阪学院大(関西2)

◆得点(アシスト)◆

大阪学院大 37分 9 岡村 和哉
大阪学院大 50分 7 加藤 健太 (53 四ヶ浦 寛康)
大阪学院大 58分 14 平岡 大毅 (53 四ヶ浦 寛康・54 大場 皓史)
大阪学院大 73分 9 岡村 和哉

《第2試合》東海大(関東1) 1 (1-0/0-3) 3 高知大(四国)

◆得点(アシスト)◆

東海大 25分 6 岩上 祐三
高知大 62分 10 高木 恭兵
高知大 78分 17 大西 徹 (13 中村 知郎)
高知大 84分 14 芝野 創太

@三木総合防災公園陸上競技場

《第1試合》静岡産業大(東海1) 0 (0-0) 0/延長1 (1-0/0-0) 0 北陸大(北信越)

◆得点(アシスト)◆

静岡産業大 92分 3 多々 良敦斗 (14 長崎 泰樹)

《第2試合》東北学院大(東北) 0 (0-1/0-1) 2 駒澤大(関東3)

◆得点(アシスト)◆

駒澤大 33分 12 梶 佑喜 (2 酒井 隆介)
駒澤大 78分 28 山崎 健太 (11 山中 淳樹)

第33回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント2回戦 2009年8月3日(月) GAME PREVIEW



関西大学(関西1) vs 国士舘大学(関東4)

《第1試合》 15:30 Kick off @大阪長居第2陸上競技場

1回戦で筑波大に5-1と快勝した関西大は、島岡健太監督が掲げる組織的なサッカーが見事に機能した。「90分プラス延長戦プラスPK戦になってでも、とにかく勝つと、みんなで決めていた」(島岡監督)と言うだけあって、最後まで運動量が落ちない。相手の足が止まった後半にたたみかけた攻撃は圧巻の一言。エースのFW⑩金園英学も得点こそなかったが、2アシストと存在感を示しており、準々決勝ではゴールが期待される。

対する国士舘大は、初出場の東海学園大に苦しめられた。細田三二監督が「前半は2トップにボールがなかなか収まらなかった」と振り返ったように、中盤のプレスに手こずり、本来の攻撃的サッカーが出来なかった。それでも後半、右サイドのMF⑩柏好文がトップ下でプレーするようになり、好機が増えた。MF⑫吉野峻光の決勝ゴールも起点は柏からで、関西大戦でもチャンスメーカーが出来れば得点機になるはずだ。

昨年の全日本大学選手権1回戦でも対戦した因縁の顔合わせ。その時は1-1のスコアで、延長戦でも決着がつかず、PK戦の末に国士舘大が関西大を退けた。関西大の島岡監督は「インカレの借りを返すチャンス」と意気込む。一方、国士舘大の細田監督は「ボールと人の連動性を修正して臨みたい」と話す。実力伯仲の両校。いかに自分たちのサッカーが貫き通せるかが、勝敗を分けるポイントになりそうだ。

(読売新聞大阪本社 運動部 藤田 真則)

福岡大学(九州) vs 札幌大学(北海道)

《第2試合》 18:00 Kick off @大阪長居第2陸上競技場

大会屈指の攻撃力を誇る福岡大に、堅守で21年ぶりの初戦突破を飾った札幌大が挑む構図となった。

福岡大のU-20(20歳以下)日本代表FW⑩永井謙佑(3年)は、やはり試合を決定づける働きが出来る。1回戦は、試合開始30秒あまりで枠をとらえるシュートを放ちCKを獲得。このCKのこぼれ球を⑩清武功暉(1年)が決めて先制した。

21分に見せたのはスピード。DF裏へのロングパスに抜け出すと、浮き球でGKもかわして得点し、後半にはゴール左角度のない位置から4点目をサイドネットに突き刺した。福岡大の強みは、この永井だけでなく、2得点した清武ら、周囲の選手も高い攻撃力を持っている点だ。守る側は的を絞りにくい。

札幌大は1回戦で、延長戦を含む110分間、法政大の猛攻をしのぎ無得点に抑えた。PK戦では、GK①二瓶孝太郎(3年)が1、2本目を連続ストップ。試合を通じて、高い集中力と球際の粘り強さが光った。「ゾーンで守る」という意識が徹底されている。ボールを奪われても個人では深追いせず、バランスを重視した守備ブロックを素早く敷く。攻撃ではFW⑩畠山直人(4年)に合わせるカウンターが浸透しており、終盤まで無失点でしのげれば勝機も見えてくる。

(読売新聞大阪本社 運動部 山口 博康)

◆2回戦進出チームの1回戦の結果◆

@大阪長居第2陸上競技場

《第1試合》東海学園大(東海2) 0 (0-0/0-1) 1 国士舘大(関東4)

◆得点(アシスト)◆

国士舘大 62分 12 吉野 峻光

《第2試合》関西大(関西1) 5 (1-1/4-0) 1 筑波大(関東5)

◆得点(アシスト)◆

関西大 3分 21 田中 裕人 (8 藤澤 典隆)

筑波大 36分 25 瀬沼 優司 (17 田中 雅士)

関西大 67分 3 宇佐美 宏和 (17 金園 英学)

関西大 69分 7 佐藤 悠希 (17 金園 英学)

関西大 72分 6 清水 孝太

関西大 88分 8 藤澤 典隆 (11 中村 祐哉)

@ユニバー記念競技場

《第1試合》福岡大(九州) 5 (3-0/2-2) 2 同志社大(関西3)

◆得点(アシスト)◆

福岡大 1分 18 清武 功暉

福岡大 21分 10 永井 謙佑 (7 末吉 隼也)

福岡大 34分 18 清武 功暉 (14 藤田 直之)

同志社大 55分 9 角島 康介 (37 杉山 和毅)

同志社大 70分 16 徳丸 敬紘 (9 角島 康介)

福岡大 72分 10 永井 謙佑 (14 藤田 直之)

福岡大 85分 9 高橋 祐太郎

《第2試合》札幌大(北海道) 0 (0-0) 0/延長0 (0-0) 0/PK 3-1 法政大(関東2)